

私たちの「仲間たち」

291

想像を絶する群れの数

今年の冬はどういうわけか「鳥が少ない」という声をよく聞く。石坂の森でもミソサザイやミヤマホオジロがほとんど姿を見せなかった。そんな中で珍客ともいえるべき「アトリ」が観察できたのはうれしいことだった。森では初観察である。スズメよりやや大きめの体長約16センチ。冬になるとシベリヤやサハリンなどからわたってくる。

アトリの特徴は群れをつくることにある。数千羽、時には数万羽にもなるそうだが、これだけでもすごいと思うが、私はその数170万羽のアトリの群れを見たことがある。2001年2月のことである。生まれ故郷の友人から「ものすごい数のアトリが来ている。見に来ないか」と電話がかかっ



▲鳩山の動植物
アトリ (アトリ科)

てきた。「170万羽はかたいな」という。ウソだろうと思ったが、そういわざるを得ないほどの数なのだろうか。私は鳩山の鳥見の仲間（6名）に声をかけた。数日の余裕しかないのに6名の仲間が手を挙げた。行先は宮城県志津川町（現南三陸町）。アトリは夕方近くになるとねぐらとする林に集まってきた。空にはゴマを散らかしたような黒い渦が巻き、押し寄せ、翻り、唸るような羽音、鳴き声、小舞の舞う林を切り裂くように鳴り響いた。その群れに飛び込むオオタカやノスリ。そのたびに夕空にアトリの竜巻がそびえたつ。私たちはその様子をただ見惚れるほかなかった。傍らの友人に「どうやって数えたんだ？」と聞くと、彼は平然と「これ、数えようがないじゃない。だったら170万羽あたりでもいいかと思った」という。実際誰も正確なところはわからない。彼はそれだけの数を170万羽という言葉で表現したのである。一緒に行った仲間のだれも異議を唱えなかった。

この冬、石坂の森で見た1羽のアトリを観察しながら、私は13年前の奇跡を思い出した。あの冬以降、南三陸町にはあれほどのアトリは来ないそう。今、ほとんどの町民は、東日本大震災の津波の被害により仮設住宅で過ごしている。

(写真・小倉憲貴／文・鈴木伸)

人口と世帯

3月1日現在、()は対前月比

人口	14,696人	(-7)
男	7,260人	(-6)
女	7,436人	(-1)
世帯	5,832世帯	(+2)
2月の出生数	7人	

4月の納税・納付

- ◆普通徴収(随期)
町・県民税、固定資産税、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料
水道料金 (2・3月分)
- ◆特別徴収
介護保険料(特別徴収) (第1期)
- 納期限を過ぎないように、コンビニ納付や口座振替をご利用ください。

編集室

▼本号で「自転車マナーアップ」をお伝えしましたが、街中では、自転車のマナー違反によって、ヒヤリとする場面に出くわすこともあり、最近では歩行者も含め、スマートフォンを見ながらの「歩きスマホ」も問題になっていいます。油断大敵とは、交通安全と関係深い言葉だと感じます。

さて、今月号のミニコーナーでは、交通安全運動の環として開催されている、「交通安全こども自転車大会」をご紹介します。

広報写真で振り返る町の歴史 ④

▶ピンを倒さず進む運転の練習をする児童



昭和63年7月21日 第22回交通安全こども自転車埼玉県大会
松栄小学校の児童が、西入間警察署内の代表として参加する大会に向け、熱心に練習する様子が伝えられています。【昭和63年6月(No.191)号より】